

軽労化®NEWS LETTER

第 2 号

○導入企業訪問第 1 弾

～北海道ワイン株式会社～

北海道小樽市に本社がある北海道ワイン株式会社は 1974 年創業の北海道を代表するワイン製造の企業です。同社は小樽から北東へ約 100 Km の浦臼町鶴沼地区に自社農場「鶴沼ワイナリー」を所有しており、その面積 447 ha はヴィニフェラ系ぶどう栽培としては日本最大の規模を誇ります。また、本社と醸造所のある小樽市をはじめ、余市町、仁木町、共和町、ニセコ町、蘭越町など後志管内には、糖度による買い取り価格決定を行っている契約栽培園があり、その規模と範囲は道内 32 市町村、約 400 軒の農家に及びます。年間のぶどう受け入れ量は約 2,500 トンで、これは北海道全体で収穫されるぶどう全量の 4 分の 1 を占めています。

倉庫には多くの製品が保管されていますが、出荷時には 10Kg～20Kg の段ボールケースを運ぶ必要があります。従来より作業をする方は腰痛を抱えており、コルセットや腰痛体操で対処していたものの、同社としては従業員の腰痛を和らげるための解決方法を探っていたとのこと。そして昨年 2013 年にスマートスーツをノーステック財団の方から紹介していただいたことを契機に導入に至りました。今回はその現場取材させていただきました。

－腰痛をお持ちでしたか？

「かなり前から腰痛を持っており、市販されているコルセットを使っていましたが、それから比べるとスマートスーツの方が楽だと思えます。」

－着用していかがですか？

「中腰姿勢の作業の時とか低い位置から荷物を



持ち上げる時に楽になりました」
「膝も弱いので膝の負担も楽になりました」
－着用期間、時間はどれくらいですか？
「導入して 1 年程経ちました。常に着用している訳ではなく、繁忙期を中心に着用して翌日に疲れを残さない様にしています。」

今後この様な取材を重ねていき、皆さんに軽労化についてより知っていただく機会を提供出来ればと考えています。

【北海道ワイン株式会社概要】

会社設立：1974 年 1 月

本社所在地：北海道小樽市朝里川温泉 1 丁目
130 番地

TEL：0134-34-2181 FAX：0134-34-2183

代表者氏名：畠村公宏

資本金：4 億 4689 万円

社員数：73 名（2013 年 8 月 31 日現在）

営業所：仙台・東京

発行・製作 軽労化研究会事務局（株式会社スマートサポート）

札幌市南 1 条西 5 丁目 7 番地愛生館ビル 6 階 TEL011-206-1462/FAX011-206-1463

Email:info@smartsupport.co.jp 発行人：田中孝之（軽労化研究会会長）編集人：中島康成

○日本の総人口の1/4が65歳以上に

～加速する超高齢化社会

総

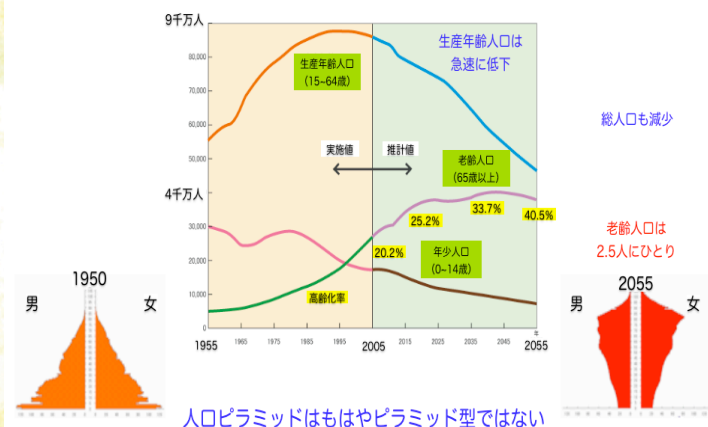
務省が4月に発表した推計人口によると65歳以上の高齢者が日本の人口に占める割合は初めて4人に1人となりました。現在の総人口は約1億2,700万人。そのうち実に25.1%が65歳以上の世代で占め、今後平成27年(2014年)には3,395万人、「団塊の世代」が75歳以上となる平成37年(2025年)には3,657万人に達すると見込まれています。その後も高齢者人口は増加を続け、平成54年(2042年)に3,878万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されています。しかしながら総人口における高齢化率は上昇の一途を辿る見込みであり、平成72年(2060年)には高齢化率は39.9%に達して、国民の約2.5人に1人が65歳以上となると推計されています。現状高齢者1人に対して現役世代2.6人で支える構図となっており、年金制度の見直し、膨張する社会保障費の抑制のための取り組みは喫緊の課題です。

○低価格ロボット、普及を支援

～政府が「戦略」

読

読売新聞は6月16日付けの記事で、価格が低く使いやすいロボットを世界に先駆けて普及させることを目指した政府の「ロボット戦略」の全容がわかったと報じています。ロボットを人手不足や高齢化の問題を解決する切り札と位置づけ、(1)介護(2)農業(3)インフラ(社会資本)点検・災害、(4)工場を重点4分野として集中的に支援する、としています。補助金を出すなどして、世界的に競争が激化するロボット分野で主導権を握ろうとの狙いです。国内の市場規模については2012年の約7,000億円から、20年には3倍超の約2.4兆円に拡大させる目標で、また同年には東京五輪・パラリンピックに合わせ、世界各国が性能を競う「ロボットオリンピック(仮称)」も開く予定です。政府の試算では、2025年には介護職員が約100万人不足すると見込んでおり、職員が要介護者を抱えて移動させる作業などが楽に行えるよう身につけると力が増幅される「パワーアシストスーツ」などの低価格化も図る方針です。また65歳以上の農家が6割以上になる農業では、無人トラクターや、思い農産物を運べるロボットなどの開発を支援。近い将来ロボット技術は益々我々の身近なところで活躍すると予想されます。



(出所) 自社にて作成

●ロボット戦略が目指す活用分野

介護・生活支援

介護職員の負担を軽くするパワーアシストスーツなど

農業

無人で農作業するトラクター

インフラ点検・災害対応

- ・空中から橋などを点検できる小型無人ヘリなど
- ・災害現場で情報を集めるロボットなど

工場

複雑な工程も担えるヒト型ロボットなど

【編集後記】

今回からスマートスーツを既に導入している企業への訪問取材を始めました。もしご協力いただければ、少しでも多くの皆様のもとを訪れお話を聞かせていただければと思っています(中島)。

発行・製作 軽労化研究会事務局(株式会社スマートサポート)

札幌市南1条西5丁目7番地愛生館ビル6階 TEL011-206-1462/FAX011-206-1463

Email:info@smartsupport.co.jp 発行人: 田中孝之(軽労化研究会会長) 編集人: 中島康成